



はじめに

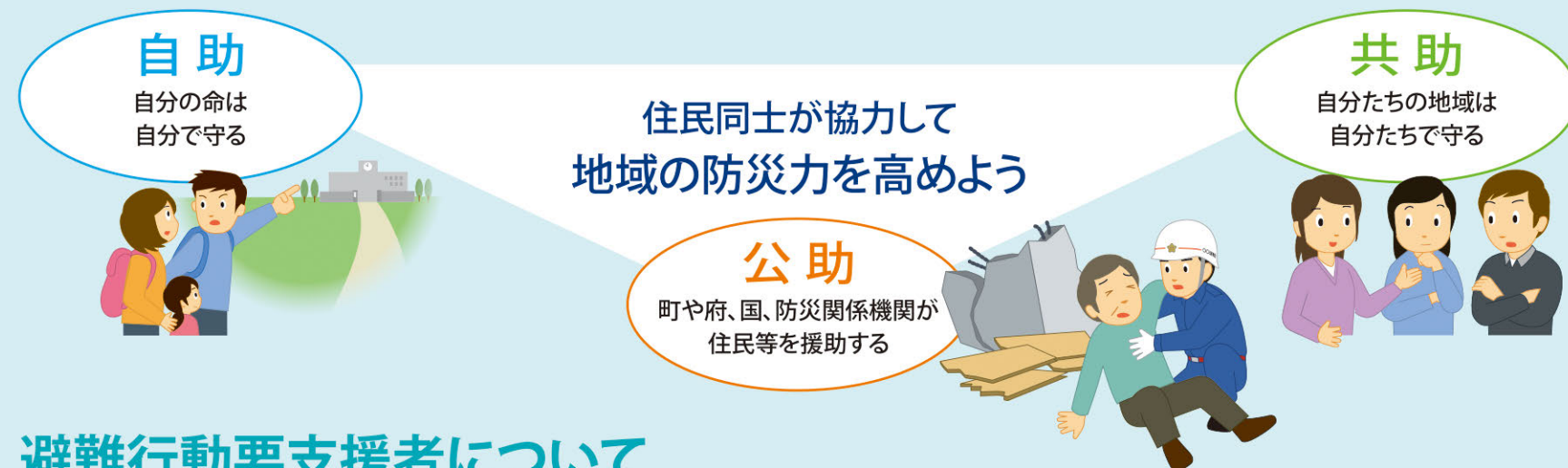
水防法の改正に伴い「想定最大規模の降雨を想定した洪水浸水想定区域図」「想定し得る最大規模の高潮による浸水想定区域図」が新たに指定・公表されたことや避難情報の変更を受け、「岬町津波ハザードマップ、岬町洪水・土砂災害ハザードマップ」を改訂し、「岬町総合防災マップ」を作成いたしました。

岬町で暮らす皆さんに想定される災害を知っていただき、日頃から災害への備えを心がけ、いざという時にあわてず冷静な避難行動がとれるよう、ぜひ、この「総合防災マップ」のご活用をお願い申し上げます。

岬町長 田代 亮

地域ぐるみで取り組む防災・減災

防災・減災のキーワードとして、「自助」「共助」「公助」という言葉がよく使われます。自助とは、いざというとき自分や家族の命と財産を守るため、住民、企業が自ら備えることです。共助とは、地域社会の被害を減らすために地域が協力して助け合うことです。公助は、行政が担う総合的な防災対策などを指しています。災害の発生を防ぐことはできませんが、これらの自助、共助、公助が連携して、効果的に機能すれば、被害を減らすことは可能です。



避難行動要支援者について

高齢者、障がい者、乳幼児等の特に配慮を要する方(要配慮者)のうち、災害発生時に自ら避難することが困難で支援が必要な方を、避難行動要支援者といいます。避難が必要となった場合は、地域で協力し合いながら、近所の高齢者、障がいのある方などの安否確認、避難場所への移動を支援しましょう。

肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。



耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩先をゆっくり歩く。



高齢者・病人

- おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。

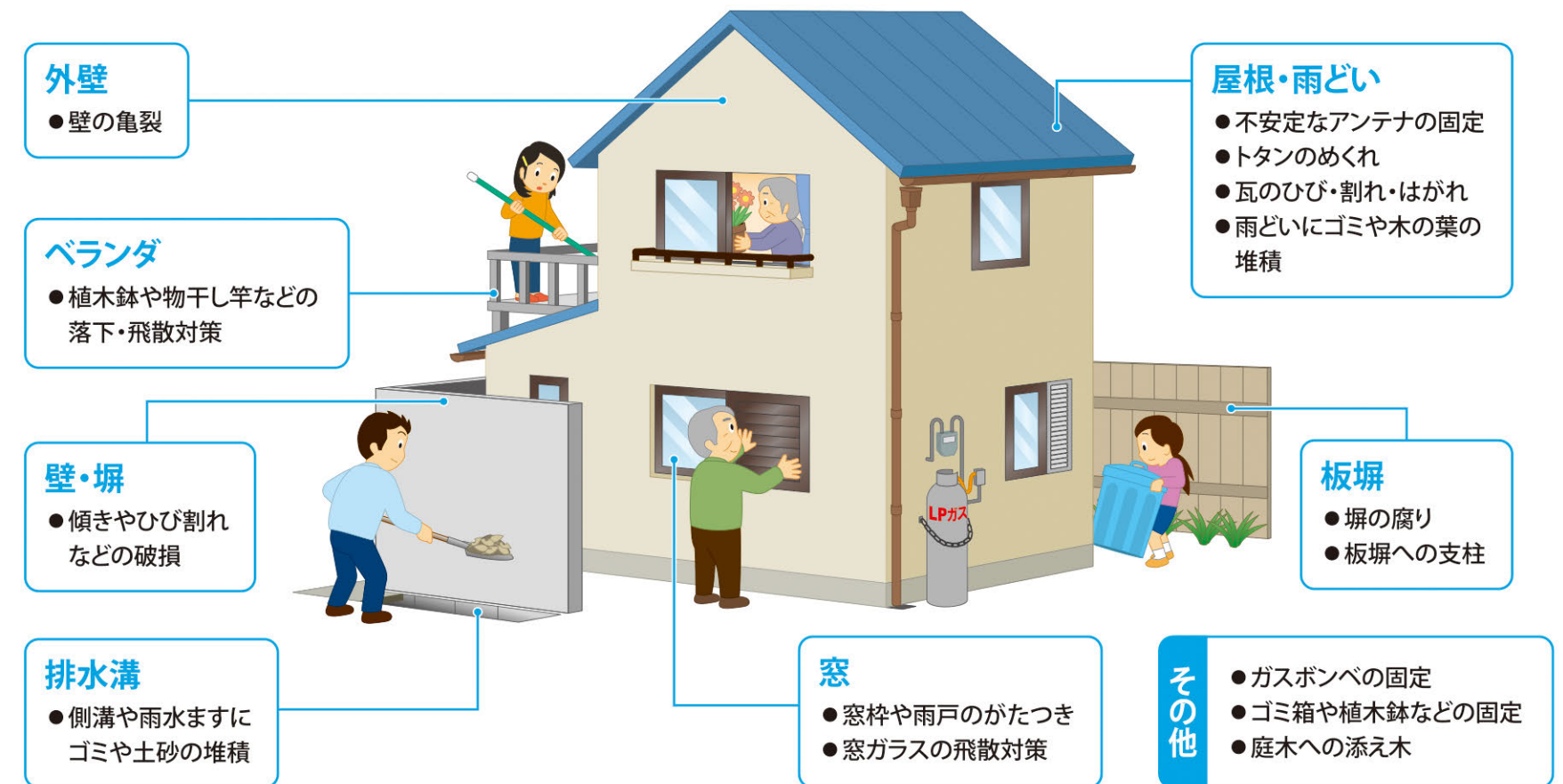


岬町では、ため池を対象としたハザードマップも公表しています。
総合防災マップと併せて活用し、災害に関する知識を深めましょう。

風水害 風水害に備えて

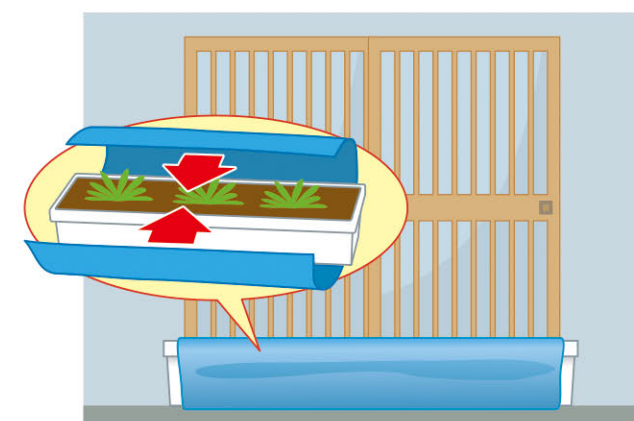
家屋の被害を抑える

風水害による建物の被害を抑えるため、日頃から建物やその周囲の点検・修理・補強を行っておきましょう。



家庭でもできる浸水対策

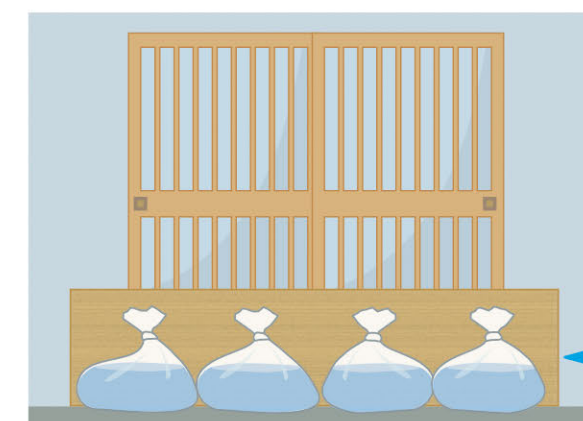
家庭でもできる簡単な浸水対策として、植栽用プランターや石油ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートに包んで設置する等の方法があります。



簡易水防工法例①

プランター＋ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。

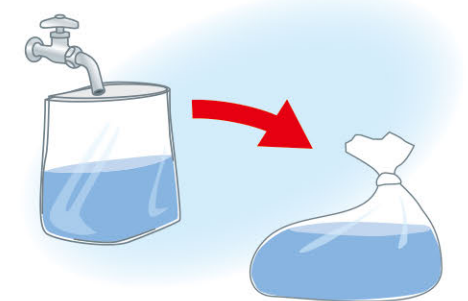


簡易水防工法例②

簡易水のう＋止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせ、出入口に設置し、浸水を防ぎます。

「簡易水のう」の作り方



家庭で使用しているごみ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

台風時の停電への備え

台風時には強風、飛散物により電線が切れるなどして、停電が発生し、照明や冷暖房が使えなくなることがあります。また、被災状況によって復旧作業が遅れ、停電が長期化することがあります。停電や停電に伴う断水に備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、予備のバッテリー、防寒具、非常食、飲料水などを準備しておきましょう。



土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。もし、下に示すような前兆現象を確認したら、速やかに避難するとともに、町役場・警察署・消防署にご連絡ください。

土砂災害の種類には、大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りではどのタイプの土砂災害が発生するのか、確認しておきましょう。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

土石流

長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。

地すべり

大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだすものをいいます。

！ こんなときは要注意 土砂災害の前ぶれ(前兆現象)				
五感	移動主体	がけ崩れ	土石流	地すべり
視覚	山・斜面・がけ	- がけに割れ目がみえる。 - がけから小石がバラバラと落ちる。 - 斜面がはらみだす。	- 溪流付近の斜面が崩れだす。 - 落石が生じる。	- 地面にひび割れができる。 - 地面の一部が落ち込んだり盛り上がったたりする。
	水	- 表面流が生じる。 - がけから水が噴き出す。 - 湧水が濁りだす。	- 川の水が異常に濁る。 - 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。 - 土砂の流出。	- 沢や井戸の水が濁る。 - 斜面から水が噴き出す。 - 池や沼の水かさ急減する。
	樹木	樹木が傾く。	濁水に流木が混じりだす。	樹木が傾く。
	その他	――	溪流内の火花。	- 家や擁壁に亀裂が入る。 - 擁壁や電柱が傾く。
音		- 樹木の根が切れる音がする。 - 樹木の揺れる音がする。 - 地鳴りがする。	- 地鳴りがする。 - 山鳴りがする。 - 転石のぶつかり合う音。	樹木の根が切れる音がする。
	におい	――	腐った土のにおいがする。	――

※上記は一般的な前ぶれです。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

土砂災害警戒情報とは…

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、大阪府と大阪管区気象台が共同で発表する情報です。土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒し、町からの情報を入手して避難してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、早めの避難行動をとりましょう。

大阪府土砂災害危険度情報 検索 🔍

<http://126.249.152.56/MobileSite/>

土砂災害の危険度情報は、大阪府がインターネットで公開している「大阪府土砂災害危険度情報」で確認することができます。

内水氾濫と外水氾濫

水害には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こる氾濫(内水氾濫)と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生する氾濫(外水氾濫)があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。

内水氾濫

外水氾濫

その場で雨が降っていなくても、川の上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。

高潮発生のおそれ

高潮とは台風や発達した低気圧によって、海岸付近で海面が異常に高くなる現象です。高潮発生の主な要因としては、以下の2つがあります。

気圧の低下

台風や低気圧の中心気圧は周辺部より低いため、周辺部の大気が海面を押さえつけ、また、中心付近の大気が海面を吸い上げるように作用することにより海面が上昇します。

風の吹き寄せ

台風などの強風が沖から海岸に向かって長時間にわたり吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられて海岸付近の海面が異常に上昇します。

大潮期の満潮と高潮のピークが重なると、海面が上昇しやすくなり危険です。また、大雨により河川の水位が上昇している場合、河口付近ではさらに水位が高くなるおそれがあります。

線状降水帯に気を付けよう

線状降水帯とは、次々と発生する積乱雲が列をなし、同じ場所を通過または停滞することで、線状に伸びた地域に大雨を降らせるものです。線状降水帯は、数時間にわたって、とても強い雨を降らせるため、土砂災害などを引き起こすおそれがあります。災害に対する危機感をもっていただき、ハザードマップや避難所・避難経路の確認等を行ってください。

線状降水帯発生メカニズム

警戒レベルと住民がとるべき行動

令和元年から、避難情報等や防災気象情報の意味を直感的に理解できるよう、5段階の警戒レベルに分類しています。さらに、令和3年から、避難情報等の名称を変更するとともに、とるべき行動も明確化されることになりました。警戒レベルに応じて、適切な避難行動をとりましょう。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	防災気象情報 (気象庁が発表)	避難情報等 (町が発令)
警戒レベル5	災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	大雨特別警報	緊急安全確保※1
~~~~~警戒レベル4までに必ず避難!~~~~~				
警戒レベル4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	土砂災害警戒情報	避難指示※2
警戒レベル3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※3	大雨警報 洪水警報	高齢者等避難
警戒レベル2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報	
警戒レベル1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	

※1 警戒レベル5「緊急安全確保」は、災害の発生を把握できていない場合もあるため、必ず発令されるものではありませんので、ご注意ください。

※2 警報等が発令されても、警戒レベル・避難指示等の避難情報が発表されるとは限りません。

※3 高齢者等以外の方も必要に応じて普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

## 避難行動(立退き避難・屋内安全確保と緊急安全確保)

水害や土砂災害の避難行動は、ためらわず災害リスクのない安全な場所へ早めに「立退き避難」することが基本です。また、浸水しない自宅の上階への避難や上層階に留まる「屋内安全確保」により身の安全を確保することも有効です。立退き避難を行う必要があるにもかかわらず、適切なタイミングで避難することができなかった場合などは、少しでも浸水しにくい高い場所やがけから離れた場所に避難し、身の安全を可能な限り確保する「緊急安全確保」を行ってください。

### ●計画的な避難行動

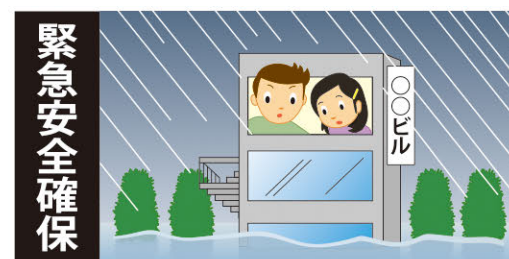


避難行動の基本です。



長時間の孤立に備え、水、食料などを備蓄しておきましょう。

### ●緊急的な避難行動



逃げ遅れた場合の行動です。身の安全を確保できるとは限りません。

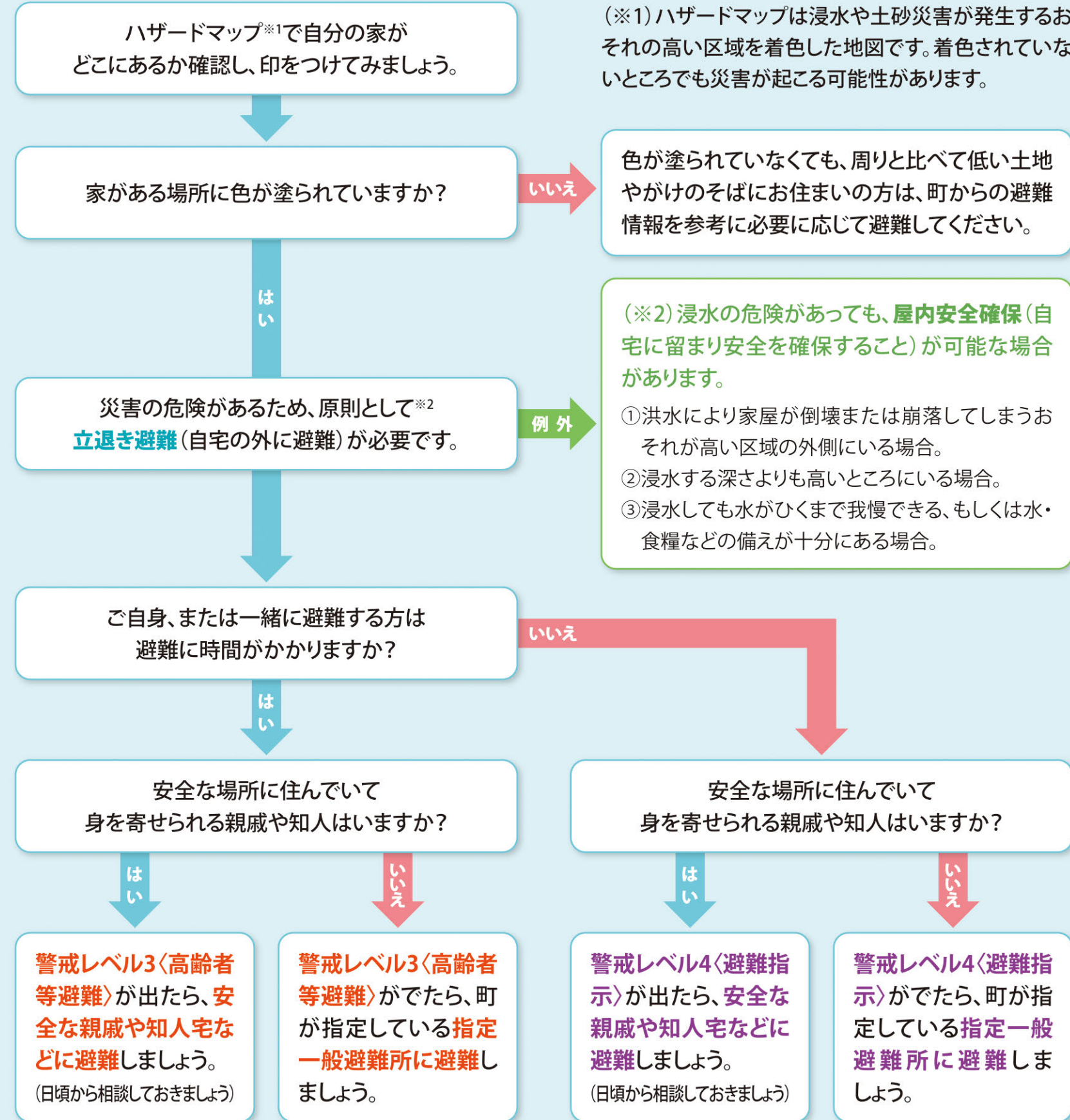
### 土砂災害から身を守るポイント

- ① 住んでいる場所が「土砂災害(特別)警戒区域」かどうか確認してください。
- ② 雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意してください。
- ③ 危険を感じたら早めに避難してください。



## 避難行動判定フロー

### あなたがとるべき避難行動は? 必ず取り組みましょう



### 新型コロナウイルス等感染症のリスクを踏まえた「避難」の検討

災害時には「危険な場所に居る人は避難することが原則」です。避難所以外への避難(分散避難)も選択肢の一つになります。安全な親戚や知人宅への避難やホテルを利用することも避難所での3密を避ける上で有効となります。



## マイ・タイムラインをつくろう

マイ・タイムラインは、台風接近や大雨が予想される際に自分とるべき行動を時系列にまとめたものです。  
余裕をもって安全に避難するためにマイ・タイムラインを作成し、いざという時の自分の行動を確認しておきましょう。

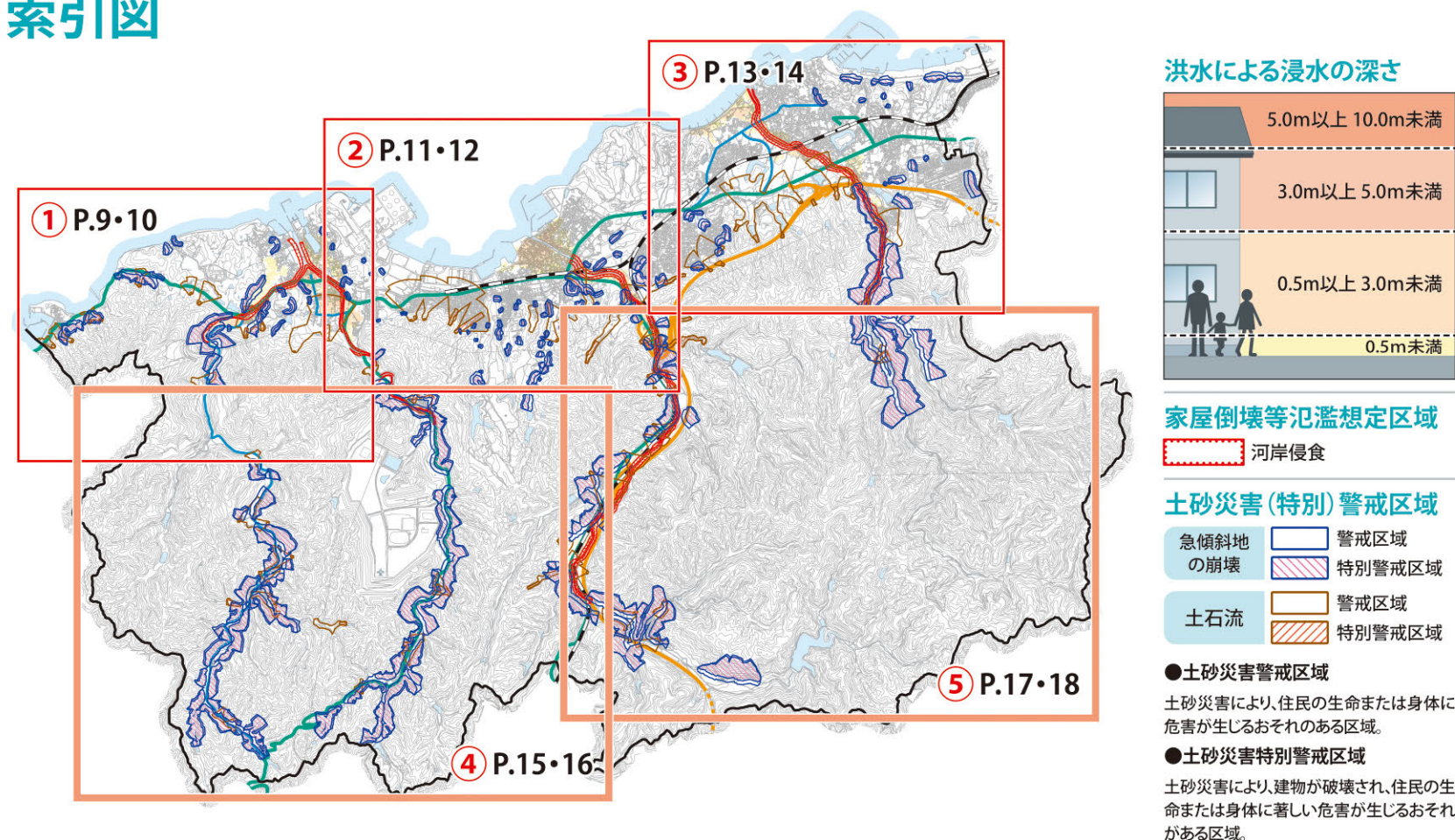
気象・避難情報		あらかじめ確認しておくこと／行動内容	
平常時   日頃から		<input type="checkbox"/> ハザードマップで自分の住んでいる場所の災害リスクを確認    自宅が    <input checked="" type="checkbox"/> 浸水想定区域内に   <input type="checkbox"/> ある(浸水深 m) <input type="checkbox"/> ない       <input checked="" type="checkbox"/> 土砂災害(特別)警戒区域内に   <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	
		<input type="checkbox"/> 避難する場所の確認  ●避難する場所:	
		●移動時間: 分 ●移動方法:	
		<input type="checkbox"/> 避難の際、支援が必要な家族・知人の確認  ●名前: 電話番号:   ●名前: 電話番号:	
		<input type="checkbox"/> 避難の際、支援してくれる人の確認  ●名前: 電話番号:   ●名前: 電話番号:	
	<input type="checkbox"/> 非常持ち出し袋を準備 →P.37を参考にチェック!		
大雨のおそれ   災害発生数日前	大雨や台風接近の予報   警戒レベル1 早期注意情報	<input type="checkbox"/> 非常持ち出し品リストの確認 <input type="checkbox"/> 1週間分の常備薬を確保 <input type="checkbox"/> テレビの天気予報を確認 <input type="checkbox"/> 家族の今後の予定を確認	<input type="checkbox"/> 防災情報の取得方法を確認  テレビdボタン        <input type="checkbox"/> 親類や知人宅への避難を検討 <input type="checkbox"/>
	警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意報	<input type="checkbox"/> ハザードマップなど避難行動を確認 <input type="checkbox"/> 避難しやすい服装に着替える <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 携帯電話を充電しておく <input type="checkbox"/> 安否確認方法の確認 <input type="checkbox"/>
避難開始時期   災害発生当日	警戒レベル3 高齢者等避難 大雨・洪水警報 高潮注意報※1 氾濫警戒情報	<input type="checkbox"/> 川の水位や雨量(住んでいるところとその上流)を確認 <input type="checkbox"/> 川の水位をインターネット等で確認 <input type="checkbox"/> 高齢者等その他支援者は避難開始	<input type="checkbox"/> 土砂災害警戒区域内や洪水時に早期避難が必要な区域内にお住まいの方は避難開始 <input type="checkbox"/> その他の人も普段の行動を見合わせたり自主的に避難を開始
	警戒レベル4 避難指示 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 高潮警報、高潮特別警報	<input type="checkbox"/> 危険な場所にいる人は、速やかに全員避難 <input type="checkbox"/> 避難途中に危険を感じた時は、少しでも安全な場所へ(自宅近くの頑丈な建物の上階部)	避難が必要な方はこの時点までに全員、安全な場所に避難完了するよう行動を!
災害発生	警戒レベル5 緊急安全確保 氾濫発生情報 大雨特別警報 高潮氾濫発生情報	※避難が完了していない場合は直ちに避難開始   ※外に出ることが危険な場合は、建物内の安全な場所で身の安全を確保する	

※1 警報に切り替える可能性が高い旨に言及されているもの

## 洪水・土砂災害ハザードマップ索引図

このマップは、令和3年12月に大阪府より公表された、洪水浸水想定区域を掲載しています。水防法の規定により想定し得る最大規模の降雨(概ね1000年に1度)による洪水浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深です。  
※この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合がありますので注意してください。

### 索引図



※高潮ハザードマップはP.19～24に掲載しています。

## 避難の心得

いざという時のために、日ごろから避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。



**状況により、すばやく避難しましょう**  
避難情報などが発表されていなくても、雨の状況などから判断し、自主的に避難しましょう。



**外出中の家族には連絡メモを残そう**  
「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくようにしましょう。



**防災メモを持とう**  
高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。



**集団で助け合おう**  
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



**非常持ち出し品は最小限に**  
非常持ち出し品は両手が自由に使えるようにリュックサックにまとめ、持ち出しやすい場所に保管しましょう。



**避難所では係の人の指示に従いましょう**  
避難所に着いたら、係の人の指示に従い、住所・氏名を報告しましょう。